

第 8 2 2 回

定例教育委員会会議録

日 時 平成 2 8 年 1 0 月 2 4 日（月） 1 3 : 3 0 ～

場 所 市役所 3 階 第 1 会議室

益田市教育委員会

第 8 2 2 回 教育委員会定例会

招集年月日 平成 2 8 年 1 0 月 2 4 日（月） 1 3 時 3 0 分～

招 集 場 所 市役所 3 階 第 1 会議室

議 事 日 程

第 1 会議録の承認について

第 2 教育長報告について

第 3 議題

第 4 その他

- ・ 益田版教育の魅力化プラン（益田市未来を担うひとづくり計画）全体構
想について
- ・ 益田市立鎌手中学校のプールの取扱いについて
- ・ 「いのち・愛・人権」展について
- ・ 献立について
- ・ 平成 2 9 年度予算編成方針について
- ・ 文化財課が関わるイベントについて
- ・ 寄附・寄贈について
- ・ 益田市いじめ防止基本方針について
- ・ 学力調査結果の公表について
- ・ 益田市立美都学校給食共同調理場の整備状況について
- ・ その他

出席者

教育委員会

教 育 長	村 川	修
教 育 委 員	永 田	秋
教 育 委 員	水 上	枝
教 育 委 員	渡 辺	隆
教 育 委 員	中 野	純

事務局職員

教 育 部 長	川 原 敏 之
教 育 総 務 課 長	島 田 博
学 校 教 育 課 長	澤 江 幸 実
学 校 教 育 課 参 事	城 市 博 明
社 会 教 育 課 長	大 畑 伸 幸
社 会 教 育 課 長 補 佐	伊 藤 功 二
社 会 教 育 課 派 遣 社 会 教 育 主 事	澤 江 健
人 権 ・ 同 和 教 育 推 進 室 長	田 中 智
文 化 財 課 長	木 原 光
教 育 総 務 課 長 補 佐	山 本 勝 利
教 育 総 務 課 主 事	岩 本 純 平

村川教育長 それでは第 8 2 2 回定例教育委員会を開催したいと思います。

（会議録の承認）

村川教育長 会議録の承認をいただきましたので、続いて教育長報告に入りたいと思います。

（教育長報告）

村川教育長 《P 2 教育長報告で説明》

これについて何かご質問等ありますでしょうか。

渡辺委員 全国万葉サミットの話がありましたが、この益田市も一生懸命やっておられますが、江津市も柿本人麿さんについて活発に活動しておられるんですが、同じようなことを進めておられながら連携というものはやっておられるんですか。

村川教育長 どちらかというとなんかの状態かなと思います。いろいろ中身については終焉の地がどちらかという話をされる方がおられます。ただそうではなくて、そこは一緒になってやろうという方々もおられて、両方ありますので、そこは進められているのかなと思います。今回のサミットにも江津市から担当の方が今後参加するかどうかを含めて見学に来ておられまして、また今後そこと併せて一緒になって参加できればと思っています。行政面では一緒に動くほうがいいとは思っているんですけども、中にはいろいろな意見があるという状況です。

渡辺委員 やっていることが私たちからしてもあまりうまくいってないのかなと思ひまして、個々にいろいろなことをやっておられますから、どうなのかなと思いますけども、将来の計画とか展望というところで、やっぱり連携してやったほうがいいとか、そうすることによって全国にも大きく P R できるというようなこともいろいろ皆さんと一緒に考えてもらって、山陰で近くにあるわけですから、連携してやったほうがもう少し魅力がアップするんじゃないかなというような気がしました。

村川教育長 規模の小さい町同士なもので、そこら辺は力にするためにも一緒になってできるところと、意見の違いは違いとして残しながらできればと思っています。中心的に活躍というか頑張っておられる方の中にも結構そういう思いの方もおられますので、なかなか無視ができないところもありますけども、うまくやっていければと思っています。

それから先日地震がありましたけれども、特に学校や教育関係の施設で被害というのは直接的にはありませんでしたので、安心しております。ただ、また大きな地震があるかもしれませんので、校舎の改築等もできるだけ早く取り組んでいけたらと思っています。ほかにご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員 ＝全員了承＝

（その他）

村川教育長 それでは議題に入りたいと思いますが、本日は用意している議題がありませんので、続いてその他に入りたいと思います。何か報告事項がありましたらお願いいたします。

大畑課長 お手元の資料をご覧ください。昨年、未来を担うひとづくり計画というものを策定し、ふるさと教育とキャリア教育を一体化させながら、益田の元気な人たちに具体的に出会っていこうという形で、今年度春から動いています。具体的にやってきていることを資料の真ん中の所を書いております。ふるさと教育については、中学校区ごとに一つのテーマを設定して、例えば匹見ならワサビで保育園から中学校までふるさと教育をするとか、そういうようなことを全ての校区で今作成中でありまして、12月にはそれが出てくるところまでやってきました。先生方に対して、益田のいろんな事業所を訪問するツアーも、今年度産業支援センターと一緒に「益田×しごとツアー」というものを行いました。資料の右側のほうに、公民館だけでなく学校を拠点としようということで、豊川で文科省の地域学校協働本部ということをして、学校の中に社会教育コーディネーターとして市川さんに入っていていただきながら、いろんな取組をしています。どんどん地域の方が子供と共に活動すると同時に、地域の方も学校を拠点にいろんな地域活動をされるようになりました。つい先日も、豊川では「ツクリバ」ということで公民館活動を学校を拠点にやりまして、いろんな方が集まってものづくりをしたということで、一つには今度文化祭で中高生の「とよかわっしょい」がピザを出すということで焼いて振る舞って、お父さん、お母さん、子供たち、おじいちゃん、おばあちゃんが一緒になって、コミュニティスペースの壁紙をプロの方に習いながら張ったということで、子供からお年寄りまでしっかりと交流しながら学んで活動するということを具体的にしているというところです。これが本当の益田市のモデルだろうというふうに考えています。そのほかにも資料の下の方になりますが、放課後の子供たちについて放課後子ども総合プラン第1期アクションということで、放課後児童クラブとボランティアハウスをどういう具合に融合しながら、今後の放課後、特に休日や長期休業中を含めて、豊かな子供たちの育ちに資する活動ができる場にするかという計画を子育て支援課と一緒に策定し、ほぼ固まりつつあるというところです。こういう形で、地域の若者から高齢者まで具体的にに関わりながら、それぞれの世代が育つということをキャリア教育という視点で、これをライフキャリアとして子供たちに提供し始めています。学校教育でも学校外でもやっているという

ところでは、これをとても魅力ある益田の新たなひとづくりの柱としてやってきました。県は来年度から教育の魅力化ということで、大々的に施策を打ち出すということになっています。県はこれまで8校の中山間高校に対して、教育の魅力化により統廃合の危機にある高校を地域にとってなくてはならない高校に、無くさないために魅力化をするということをやってきました。そのモデルが隠岐島前高校です。隠岐島前高校は県外からも教育移住が中心となるような学校となっていて、地元の子供たちもだんだん入学生が増えているということで、これが一つのモデルとして、「中山間だから」ではなく島根県全体で、保育園や幼稚園から高校までのところを各市町村で魅力ある教育をしていきませんかというお声掛けが来たところです。県としてはその「魅力化」というキーワードで、あなたたちの町の特色をしっかりと前面に打ち出した教育を推進してほしいと、それについては県としてはしっかりと応援したいと、応援というのは要するに財政的な支援ですが、それをしたいということで今説明をしてこられているところです。今益田市が「ひと」をキーワードに、ふるさと教育とキャリア教育が一体となりながら、学校を拠点としながらやっているということがとても特徴的であり、魅力的であると、益田市のこの動きがそのまま県が言うところの「魅力化」であるというふうに判断すると県も認めてくれておりますので、県に対しては、益田市版の魅力化プランというのは私たちがやっている次世代育成のライフキャリアをベースにした様々な取組が一致するものであるというふうに県と協議を進めているところです。今年6月に基金を入れていただきました人材育成基金を活用しながら、県の魅力化の事業を取って、来年度しっかりと学校や学校外で具体的な取組ができるような体制づくりをしたいというふうに県と話を進めているところです。イメージとしてはまだ十分ではありませんが、これを見てお感じになるところがございましたら、またご意見いただいて、これを十分に市民の皆さんや教育関係者にしっかりと理解いただけるように今後説明をしたいと思っています。

村川教育長　新しい県の施策と今までの益田市の施策との融合といいますか、うまく活用してこれを展開していければと思います。方向性は全く違っていませんので、ご意見を頂きながら取り組んでいけたらと思っています。これは社会教育課のほうで中心に作ってもらっていますけども、これをもう一度それぞれの立場で何か手を加えるというようなところがあれば、その辺も含めて行って教育委員会全体あるいは市全体でのデザインを表していければと考えております。これについて何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員　＝全員了承＝

村川教育長
島田課長

ほかにありましたらお願いいたします。

お手元に益田市立小中学校プール設置及び授業の状況という一覧表をお配りしております。今の各小中学校のプールの設置状況をそれぞれ載せておりますが、現在小学校では5校が敷地内にプールがない状況です。中学校については6校が敷地内にプールがないということになっています。学習指導要領としては「水泳は小中学校共に必須」となっていますが、「適切な水泳場の確保が困難な場合には取り扱わないことができる」という規定になっています。その「適切な水泳場」というところですが、敷地内のプールやその近隣にある公立のプールも含むということになりますので、そういうところで設置がない小学校については近くの中学校に行くとか、匹見では匹見中央プールを使っているということがあります。中学校については中西中学校だけが中西小学校のプールを使っているという状況です。そういう中で、鎌手中学校のプールについてなんですが、今年7月頃に使用中にろ過機が痛みまして、現在使えない状態になっています。授業についてはぎりぎりのところまで使用することができたんですが、夏休みに入ってPTAの貸出しというのをやっていたけれども、そちらについては使用禁止ということで授業までのところで今年度は使用を終えています。来年の授業に向けて改修が必要ということなんですが、その改修費についてはこのたびの12月議会に向けて今提案できるように準備を進めています。金額としては約700万円かかる見込みです。維持補修ですので補助金も当たりませんし、起債も起こすことができないというものになります。修繕をしないと使えないわけですが、こういう理由の場合には「適切な水泳場の確保が困難」というのに値するかどうかということについていろいろと情報収集してみたんですが、今年度については授業で使っていて改修期間が十分に確保できずに使うことができなかったという一時的なことでは「確保が困難」という場合に値するそうなんですが、来年については改修するには十分な期間がありますので、それを放置して来年も修繕なしで使えない状態であるというのは非常に難しいということになるそうです。当然現状維持の使えるところまでの補修は必要というところで判断していただいて、補正要求を上げています。ただ、鎌手中学校については再編協議をしていて、再編が整った場合にそのプールをどうするかという課題も抱えています。鎌手小学校は敷地内にプールがありませんので、この鎌手中学校のプールを使っています。もし鎌手中学校が再編で学校がなくなった場合に、プールだけが残りますと、その管理を誰がするのかという

問題が残ります。学校と正式協議というわけではないんですが、もしそういう事態になったときに対応できるかどうかというのを立ち話程度にはしたんですが、なかなか難しいようでした。いろいろな学校で現状を聞いてみると、ただ水温を計ったり塩素濃度を計ったりするだけではなくて、1時間当たりの温度がどう上昇しているかというようなことについても調べたりするので、1時間程度はその確認にかかるそうです。それが多少でも遠方に、しかも目の届かない所にあるプールとなると、管理する立場からすると非常に難しさを感じるということでした。仮に今回の改修を見送った場合には、ほかの公立のプールがあればそれを利用することもできますので、鎌手中学校以外の学校を利用することはできないだろうか検討した場合に、近くには東陽中学校と安田小学校もあるんですが、その両校は同一学年に複数学級がある学校ですので、本来の学校で授業が一杯一杯で組まれているというところがありまして、他校を受け入れる余裕がないというのが現状です。もう少し遠方まで足を延ばせば豊川小学校などもあるんですが、そこまで行くと今度は移動にかかる時間が普通に車を走らせただけで20分程度かかりますので、着替えなどの時間を考慮すると、なかなか授業の時間数を確保するのが難しいのではないかと考えています。予算としては今あるものを原状回復ということで予算要求をしていきたいとは思っているんですが、それに含めて今後のプールの整備の仕方というところでご意見があればお寄せいただきたいと考えています。

村川教育長 鎌手中学校はちょうど再編についても協議中ということで、悩ましい時期ではあるかと思います。資料のほうでそれぞれA案・B案とお示ししておりますが、今の事務局としては今のプールを残すA案を主体的に考えているということですよね。

島田課長 はい。問題は残るんですが、何らかの形で管理をして、仮に鎌手中学校が無くなってもそのプールを小学校で使っていただきたいと考えています。

村川教育長 これについて何かご質問等ありますでしょうか。

渡辺委員 プールの授業というのは自分の命を守るための教育だと思いますので、プールの学習というのはどこの学校でも実施していただきたいと思います。私も今見るまではプールの授業がない学校があるというのは全然知りませんでした。できるだけ命を守る教育として、やっぱりプール教室だけはやってほしいなというふうに思います。

永田委員 この前鎌手中学校の校長先生と話をしたときに、そろそろ東陽に行くのかなってというような感覚で話を聞いてたんですが、それがいつになるかは分かりませんが、ゆくゆくはそうなるかと思うと、鎌手中学校のあの場所へ小学校の先生が行くのは、夏場以外はいいにしてもなかなか

か大変じゃないかなとか、それでも授業しない所もあるしなとか、いろいろ考えたんですが、例えば市のプールまで時間を決めて何日か続けて行って、プールの時間というのを全校でもし取り組めるのなら、そういう所で専門的に教えてもらおうとかっていうことがもし可能なのであればしていただきたいと思います。

大畑課長
中野委員

市営プールは泳げません。授業では使えません。

できればプールは残していただきたいと思います。先ほど渡辺委員さんがおっしゃられたように、命を守るとというのが大前提であるということとともに、子供たちも楽しみにしている授業の一つだと思うんです。確かに管理する側としてはいろんな課題もあるんだとは思いますが、予算的にもいろいろ協議された中でこういう形を提案されたんだと思いますので、自分もA案という形が望ましいのかなと思います。

水上委員

私もA案で良いと思います。私の子供が中学校に行った時にプールの授業がなくて、高校に行ったらなぜあるんだろうというふうに思ったことを思い出しましたがけれども、ほかの中学生はやっていたんだなのを今この表を見ながら改めて思いました。もう益田中も高津中も益田東中も大規模校の生徒は、3年間で1度もプールの授業をするということが今後市内ではありえないということですよね。市内の高校に行った場合にプールがある高校もないということです。

大畑課長
村川教育長
教育委員
村川教育長

そうなります。

ほかにご意見等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

=全員了承=

そうしますとプールは残すという方向で進めていただけたらと思います。

村川教育長
田中室長

ほかにもありましたらお願いいたします。

それではお手元のほうにチラシをお配りしておりますが、「いのち・愛・人権」展の開催についてのお知らせをいたします。この「いのち・愛・人権」展につきましては、3年ごとに開催されているという状況でございます。目的としましては、部落差別をはじめとするあらゆる差別や偏見の解消について啓発を行う、また、基本的人権についての理解や人権意識の高揚を図って、一人一人が尊重され、共に生きることができると地域社会をつくっていくというようなことを目的として開催するものでございます。この開催にあたっては、行政、人権問題について活動されておられる団体、当事者の団体、そういった方々が集まって実行委員会をつくりまして、開催するものでございます。実行委員会は広域でやっておりまして、吉賀町や津和野町のほうも併せてやっているものでございます。もちろんその中に益田市も加わって、今年は23団体で構成

しております。内容としましては、お手元のチラシのような格好でございます。開催は12月4日から12日までの9日間ということで開催いたします。場所は人権センターが主会場になりますけども、総合福祉センターも利用して行うこととしております。内容は展示が主になりますけども、それぞれの人権課題についての展示、それと併せて講演会や映画上映、体験コーナーなど、そういった形でやろうとするものでございます。この開催にあたっては、市内の各小中学校には既にご案内しております。各学校の人権教育ということでこちらを見に行っていて、人権教育にさせていただこうということで進めているところでございます。学校のほうの出席については、こちらでバスを準備しております。そちらで参加してもらおうという形で進めております。そういった形で開催されますので、皆様方におかれましては是非ともご覧になっていただきますようお願いをいたします。

村川教育長 またご都合のいいときに中身に併せてご覧いただければと思います。これについて何かご質問等ありますでしょうか。

永田委員 12月7日の徳田弁護士さんのお話を是非聞かれるといいかなと思います。以前何度かお会いしましたが、良い話をされるんじゃないかなと期待しています。

村川教育長 ほかにご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。
教育委員 =全員了承=

村川教育長 ほかにありましたらお願いいたします。

島田課長 続いて献立についてです。11月につきましては、給食のテーマを「給食に使われている益田産の食べ物を知って味わおう」ということで設定しています。裏面のほうには、地産地消の取組を記事として紹介しています。この中で地産地消率ですが、昨年度は副食で重量ベースで51.5%でした。若干ですが平成26年度よりは伸びています。その中でも特に地産地消率の高い野菜のトップ3ということで、きゅうり・ホウレンソウ・キャベツを載せています。そのほかにも実際にはエリンギなどは100%という状況になっているんですが、特によく使う野菜ということで先ほどの3つを紹介しています。地産地消率を上げるために加工した食品を採用しております。旬な時期よりも長い期間利用できるようにしています。そこで冷凍カットトマト・干しシイタケ・切り干し大根の紹介をそこに載せています。冷凍カットトマトについては、事業者の方が撤退されたりとかいろいろありましたけれども、今年度はフルール益田さんということで、物資購入小委員会にも諮ってこちらから搬入することが決定しております。カレーとかスープなど煮込む料理に主に使っています。それから表面のほうですが、11月の献立の特徴と

して、まず12日が益田養護学校との共同献立ということになっています。「益田鶏のゆずの香焼」ということで、ゆずと多岐のイチジクを使ったソースということで、島根県学校給食会の特製ソースを利用したものとになっています。それから18日が「益田の食育の日」となっておりまして、保・小・中の連携献立ですが、いも煮汁となっています。水曜日は卵の除去食を出す曜日となっておりまして、2日・9日・16日で印が付いているものですが、八宝菜・ビビンバ・かきたま汁にそれぞれ卵を使用します。アレルギーでご希望のある方、現在8人の方が対象となっていますけども、卵の除去食ということで提供をしています。2学期から開始していますが、特に問題なく順調に來ていますので、これに慣れ過ぎないといえますか、緊張感を持って水曜日には当たるように事業者とも連携を取っています。25日に「りっちゃんの元気サラダ」というのがありまして、栄養士のほうに「りっちゃん」とは誰なのかを聞いたんですけど、小学1年生の国語の教科書に「りっちゃん」という女の子が登場しまして、病気のお母さんにサラダを作ってあげるんだそうです。いろんな動物が出てきて、こんな野菜を入れるとおいしくなるよという提案を受けて、最終的においしいサラダが出来上がるということで、国語の教材に即した給食メニューというところで、全国的にこれを使っている所が多くあるようで、「りっちゃんの元気サラダ」とインターネットで検索するといろんな市町村がヒットしました。それと同じような形で益田市も取り組んでいるというメニューになっています。

村川教育長
永田委員

これについて何かご質問等ありますでしょうか。

テレビでよく給食のことが出るんですけど、「給食で日本食を」というような形で素晴らしいメニューが出ていて、有名なシェフが給食の調理場へ行って出汁から作って、だけどお金がかかるからどうするかとかもめながら、干しシイタケの戻したものを入れたりしていたんですけど、全国的に給食というものを見直しているというか、給食で日本食の素晴らしさを子供たちにとっていうことでいろんなところで取り組んでいるんだなということを感じました。益田市も和食を中心に頑張っておられるのでいいかなと思いながらそのテレビを拝見しました。

それから益田市の地産地消で51%というのは思ったよりも大きい数字で、もっとこれから伸びるといいかなと感じておりますので、大変でしょうがどうぞよろしくお願いします。小さいときの味覚というのは一生続くんだということを耳にしますので、是非薄味のおいしい給食をお願いします。

村川教育長

北海道の被害の関係で野菜の高騰がすごいニュースになっていますが、益田の学校給食への影響は出ているんでしょうか。

島田課長 全体としては給食費で頂いている中でまかなえています。というのは、今までご飯をほかの事業者に委託していましたので、そこで加工賃がかかっていました。ですが今は自前でご飯を炊きますので、そこが大きく下がってしまして、経費が思ったほど上がってないというところがあります。ただ、野菜は確かに高騰が激しくて、今2週間ごとに事業者を決めて入札をしているんですが、1週間単位で値段が変わりまして、一旦提示した額ではもう対応できないというご相談を多く受けています。

この前の台風の時に給食を取りやめたんですが、今まではその時の食材は次に回して、少しずつ次に入荷するものを減らしながら調整していくというやり方をしていたんですが、事業者が必要なものを更に大元の生産者に確保しているといいますか、それを必ず取ってもらわないと次が確保できないという状況になるらしくて、今回はもうキャンセルができないという状態になりました。その分を給食費に跳ね返らせるわけにはいきませんので、教育委員会の職員を中心に市役所職員に呼び掛けて買っていただきまして、何とか負担がないようにしたんですが、今までにはないそういう状態が出ていまして、仲卸業者の方からも前だったらできていたのに自分たちも困っているんだという話はよく出てきます。

永田委員 今本当に野菜が高いですよ。レタスが250円から300円くらいで本当に跳ね上がっていて、ホウレンソウでも1束250円とか、きゅうりも1本120円から130円くらいしますので、本当に大変だろうなと思います。

大畑課長 市内で玉ねぎを作っている方の話だと、去年ちょっと高くて儲かったらしいんですが、今年もたくさん数ができたので良かったと思ったんですけど、数はあるけど大きくならなかったということで、結局収益は半分くらいになったそうですので、益田でもなりが悪かったみたいです。

村川教育長 被害の影響だけではなくて、夏の気候の関係もあるんでしょうか、全国的に出来栄えそのものも違っているんでしょうね。大変でしょうがよろしくお願いします。ほかにご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

村川教育長 ほかにありましたらお願いいたします。

島田課長 それでは平成29年度予算編成方針についてですが、編成方針のほうは財政課から10ページくらいにわたるものが示されているんですが、今日お手元にグラフになったものと表でまとめたものを用意しています。まずグラフのほうですが、左側の歳入の所なんですけど、昨年度の当初予算では、一般会計の一般財源部分ですが、169億2,800万円です。それが29年度は164億9,900万円に減額するとい

う見込みで編成方針が出されています。この減額の要因としましては、地方交付税の合併算定替え、合併した当時はそれぞれ益田市・美都町・匹見町の3つが存在するものとして、交付税を算定したものを10年間交付されるというものでした。それが10年経過すると1つの市町村の枠に向けて減額していくというもので、年々交付税が減っているという状況です。そのために歳入予算が圧縮せざるを得ないという状態で、通常であれば減額した部分は財政調整基金という基金でつなぐというところなんですが、その基金も枯渇寸前という状態になっていまして、つなげる財源が非常に厳しいというところで減額を見込んでいます。この164億9,900万円はどう歳出を組んでいくのかというのが資料右のグラフになるんですが、義務的経費、人件費や福祉などの扶助費、それから公債費、過去に起こした起債の償還に当たるものですが、そういう絶対に削ることのできない経費というものがあります。それが130億2,800万円が固定となります。右端の政策的経費というところで、5億800万円とありますが、昨年度は5億円を見込んでいましたが、これは主要事業のヒアリングを夏に行いまして、最終的にこの政策的経費ということで認定されている事業費を積み上げていくと、一般財源部分で5億800万円が必要となっています。残った部分で主体的経費とその他というところがあるんですが、ここを昨年度に比べて圧縮していかないと全体予算が組めないというところなんですが、その中でもその他というのは大きな施設の管理費等になりますので、削ることができないという見込みのものです。これが昨年度では15億7,800万円あったものが、今年は膨らんでいまして、16億2,800万円、これは固定ということで、最終的に残るところ、主体的経費というものを圧縮して予算編成をするしかないということになります。昨年度ここが14億5,600万円あったところが、13億3,500万円となっています。その13億3,500万円という内訳が別表に示した平成29年度予算要求限度額というものになります。若干端数を削って枠配分がされていますので、一致はしてないんですが、13億2,150万円という枠をそれぞれの部に振り分けられています。教育委員会は2億1,300万円という中で、ここの対象事業を組むということになっています。この主体的経費は、簡単に計算すると前年に比べて約9%減額なんですが、この教育委員会部分は15%くらい減額になっています。なぜ教育委員会だけ減額率が大きいのかというようなイメージを受けてしまいがちなんですが、実は政策的経費の5億800万円、夏に行います主体的な事業費で積み上げたものですが、この5億800万円のうち約40%が教育関係の経費です。その他というところで、施設の管理費に当たるようなところで削ることができない16億2,800万円については、

教育関係の経費が約30%です。ですからこのどうしても削られないという経費のところで教育関係の経費は大きく配分を頂いています。その中で主体経費のところは全体の割合としては16.1%というところになっていまして、今までと比べると圧縮は確かに大きいところなんです。ほかのところの政策的なところで確保されていますので、どうしてもこちらにしわ寄せがきているというところが一つあります。29年度に向けて予算編成をする中で、非常に厳しい中ですが、他の部に比べて主体的経費というところの減額率が大きくありますので、例年と比べてかなり厳しい予算編成を強いられているという現状です。今各課で15%カットでこの主体経費に該当する事業が組めるのかどうかというところを協議していまして、今週のところで協議をしまして、最終的な主体的経費の2億1,300万円をどう組むかという検討をしていきたいと考えています。

村川教育長 来年度予算編成の財源的な状況について説明をいただきました。特に地方交付税の減少というのが非常に、うちだけではなく全国的なことではありますけども、こういう形で事業費に影響が出ております。今までシーリングなどはあったわけですけども、更に大きなシーリングという状況が予想されるところであります。我々としては、教育費そのものの厳しさを踏まえて編成をしていくということになります。できるだけ新しい取組というものも見えていの中で、いろいろな知恵を働かせながらというところではあるんですけども、そう簡単に特別な手立てというのは出てきませんので、非常に厳しい編成をしていかざるをえないのかなというところをご理解いただきながら、また予算要求をご説明していかないといけないのかなと思っております。良い状況ではない話しかできませんが、また具体的な状況については説明をしていきたいと思えます。これについて何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

村川教育長 ほかにありましたらお願いいたします。

木原課長 それでは歴史・文化財関係のイベント2件についてご案内をさせていただきます。11月2日にグラントワで「弔いのかたち」という講演会を開催いたします。これは実行委員会事業になりますけども、この実行委員会では指定・未指定を問わず、市内の様々な文化財の掘り起こし調査を進めておりまして、その中で中世の石製の供養塔などが相当な数発掘されてきておりますので、それをテーマに据えて、いろんな葬送の形式や儀礼でありますとか、更にそこから見える人々の思いとか、そこまで踏み込んだ内容で講演いただいて、意見交換をしていただく内容となっております。

もう一つは11月26日に県指定を受けております益田糸操り人形が全国民俗芸能大会に出演をいたします。糸で人形を操る浄瑠璃芝居形式というのは益田くらいですけども、その貴重な文化財を是非国指定にしたいということで、益田にももちろんいろんな研究者に来ていただいておりますけども、こういう中央で行われるイベントに出演して、そこに文化庁の調査官でありますとか、いろんな大学等の民俗芸能の研究者などたくさんの方に見ていただくと、そういうところへ是非出演してほしいということがかねがねありましたので、今回やっとそれができないまして、準備をする段階から講演をするまでの間、文化庁のほうで記録作成と調査が徹底的に行われまして、それを基に今後国指定に向けての運びが少しずつ具体化していくのではないかと期待しております。

村川教育長 直接ご覧いただいたり、ご紹介もいただけたらと思っておりますので、よろしくお願いします。これについて何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

村川教育長 ほかにありましたらお願いいたします。

島田課長 寄附の一覧表をご覧いただけたらと思います。10月のご寄附といたしましては、茶道裏千家石見青年部さん、毎年頂いているんですが、今年も奨学金へということでご寄附を頂いております。例年であれば、贈呈の時にお茶を立てていただきまして、それを市長が頂くという趣向となっていて、ひとまるビジョンさんの取材で放映もされていたんですが、今年は青年部さんのほうが時間が取れないということで、そういうセレモニーがなしということで受け取っただけとなっております。

村川教育長 これについて何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。
教育委員 =全員了承=

村川教育長 ほかにありましたらお願いいたします。

城市参事 資料は用意してないんですが、2点ほど情報提供とご意見をお聞きしたいことがあるんですが、まずはいじめ基本方針についてです。平成25年10月に国のほうでいじめ防止対策推進法が成立しまして、益田のほうではこのいじめ防止基本方針を作っていなかったんですけど、この法律の中には「自治体は作ることに努める」とありますので、今年度そのいじめ防止基本方針を策定中です。明後日いじめ問題対策連絡協議会というのを開きまして、そこで協議いただいて、いじめ防止基本方針としてある程度のものを作り上げて、今後パブリックコメント等を頂きながら、益田市の方針を定めていこうというふうに考えています。次回の定例教育委員会までには皆さんのほうにご呈示できるのではないかと思います。

っていますが、定例教育委員会と前後する場合も考えられますので、その場合は郵送等でお届けしようと思います。

もう一点はご意見をお伺いしたいことがありまして、先月29日に全国学力学習状況調査の全国公表がされました。以前の定例教育委員会で非公開でお示ししたとおりの概要でしたが、益田市のほうもホームページ等で公表しています。今度12月には県の学力調査も予定されているんですが、この2つの結果について全国的な様子を見ると、学校名を公表している自治体があります。今年度の全国学力学習状況調査についての結果を学校名を公表したのは、県内では松江市と出雲市だけです。益田市としては、これまで小規模校が多いということで、個人の特定につながる、あるいは調査自体の目的がねじ曲がってくるといいですか、正確な実態が把握できなくなってくるのではないかということで、学校名の公表は控えてまいりました。ですが全国的な状況を見て、今後どうすべきかということを考えているところです。その辺のご意見を頂ければと思います。

村川教育長
城市参事

全国的な状況というのはどういう状況なんですか。

正確にどのくらいの割合で公表が進んでいるかということは把握しておりませんが、県内においては松江市と出雲市というかなり人数の多いところが公表に踏み切っています。他県のほうでは、正確には分かりませんが、同じように公表している所がございます。一つには学校のある地域の皆さん、あるいは保護者に対して、学校の学力等について、きちんと説明するという意味合いもあって実施されているようではあります。

村川教育長
渡辺委員

これについて何かご質問等ありますでしょうか。

公表することによって、松江市や出雲市というのは学校間競争というような形の中で、ますます学力が上昇しているというような現状というのがあるんですか。

城市参事

実際に学力のいわゆる点数のところが高いという状況は、実は公表前からあります。松江市は去年から公表されているんですが、それによって上がったかというのはまだ把握ができていません。

渡辺委員

私が一番懸念しているのは、公表することによって、それぞれの学校で何とか隣の学校には負けたくないとかってというような形の中で、学力テストのための過度の学習、点数を上げるための学習という形に走っていくと、やっぱりそれもまた問題じゃないかなという気がするんです。この学力テストというのは広範囲なものですから、過去の問題だけを繰り返したりというような形でやっていくと、本来の教科授業がおろそかになったりということが懸念されるんです。授業の態度というのも以前と比べてすごく良くなってきているというお話も聞いておりますので、

それはプラスになる要因が強いというものがもしあるならば、公表してもいいというような気がしています。

永田委員

松江市が公表されて1年たって、そのことに関して、松江市内の先生方の意見として、良かったとか、良くなかったとか、公の場では言わなくても何となく聞こえてくる感覚としてはどうなのかなということと、それから公表することによって何がプラスになるのかとかその辺りを考えていまして、できれば十数人の学校と数百人の学校で争ったって、本当の正しい学力というのは分からないような気がするんです。たまたま十数人の学校がいい子ばかり揃っていたら、すごく良いかもしれませんし、たまたまそこが悪かったら下がってくるかもしれません。年によって変わってくるかもしれません。学校の評価を表に出すことによるメリットというのは私は少ないような気がするんですけど、益田市としては今の様な感じにいるというくらいでいいような気がします。

この前公開授業で益田小学校へ行ったときに感心したのが、4年生と6年生の道徳の授業を見て、4年生の公開授業をしている隣のクラスは自習をしていたんです。それがものすごく静かで、コトリとも言わずに、多分「人が来るから静かにしてなさい」というような話はしていると思うんですけど、本当に一言も話さずに一生懸命勉強していたんです。6年生の所に行っても隣のクラスも全く同じ状況で、びっくりして、校長先生に「すごいですね、コトリとも言いませんね」と言ったら、「結構頑張るようになったんです」とかいう話を聞いて、ここ10年くらいで市内の子供たちは人の話を聞くとか、自分たちで学習するとかっていうことが、全てではないかもしれませんが、そちらの方向へ頑張っているんじゃないかなという印象を受けています。益田東中学校で3年生の美術の授業も見させていただいたんですが、本当に一生懸命で、「この中に特別支援の子も2人いるんですよ」という話も聞きながら、一生懸命やっておられて、授業がばらばらになっているわけでもないし、私語をするわけでもないし、荒れているときは誰が来ようが誰が見ようが関係なく、出たり入ったりで騒がしいんですけど、そういうことが全然なくて、1つの学校だけかなと思ったらそんなこともなくてびっくりしました。前に高津中でカタリ場で話をされた時も、3年生が静かに聞いていて、話を聞く姿勢というのが少しずつ出来てきているんじゃないかな、良い方に行っているんじゃないかなという感覚を持ちました。それに輪をかけて学校で競争したりというのは現場に対して余りプラスにならないんじゃないかなと私は思います。

水上委員

私も今の状況でいいと思います。恐らく地域の方は、興味本位から近所の学校の子供の成績はどうだろうかという思いをきっと持っておられると思います。先週「1, 000人の挨拶運動」というのがあったので、

1週間出ました。出ているのは地域の方ばかりで、保護者の方はほとんど出てなくて、お会いしたのはお一人だけでした。本当に地域の方たちは、学校が要求することは何とかしてあげたいという気持ちを持っておられますけど、当の保護者が今一歩だなというのをすごく感じました。学力に対する興味というよりは、地域の子供たちをみんなで何とかしようという地域の方の温かい気持ちだと思うんですけど、今の状況で言うところと公表することによって保護者の人にすごく刺激があるとか、子供たちに刺激があって、頑張るやろうという良いペースに乗せられるかなというのは、少しハードルが高いかなという感じがしています。やっぱりそういうところを親子で話をしたり、学校の先生と保護者がうまくコミュニケーションをとらないと、いきなり学校別にというのはいろんな問題が起こってくるんじゃないかなと思いますので、今の状況でいいような気がしています。

中野委員 自分としては慎重に進めていただきたいなと思います。特に学校現場の先生としては、点数を取るための教育というふうに方向が示されてしまうと、本来その中身のほうが大事なんじゃないかということを保護者としては思うところもあるんですが、そこがずれてくるという危険性があるかなというふうに思っています。ただ、これからいろんなデータを取られて、こういった部分でプラスなことがあるとかっていう根拠があれば、またそういう方向で検討していくということも大事だと思います。今の段階では慎重に、もう少し時間をかけることが可能であれば進めていただければというふうに思います。

村川教育長 現状としては今の方向性というものを維持しながら、また様子を見ながらということだろうと思いますが、政策的には様々な新しい取組というものを絡めながら学力向上を目指していくと、この学力向上は一番大事だと言われますので、どうやって上げていくかという模索も含めてまた検討いただければと思います。

大畑課長 キャリア教育で高校と話をすることが多いんですけど、益田市に高校が4校ありますが、その4校の先生方は長年益田の中学生を受け入れてきて、時代が進むとともに子供たちの学力の実態についてどういう肌感覚を持っておられるのかということ、それから県立高校でしたら高校入試の点数がどう変移しているのかということ、益田の子供の教科の特徴的な点はどうかということなどは聞くべきであろうと思っています。高校はすぐに専門学校や就職も含めて試験というものを必ずくぐる子供たちを3年間で仕上げるという大きな責任を持っておられますので、そういう方たちの肌感覚をもっと私たちも聞いておかないと、送り出した後どうなのか、これはよく小学校や中学校でも、「小学校まではこうだったのに中学校ではどうなっているんだ」とか、中学校では「小学校は何

を教えていたんだ」というようなことと同じようなことを、今もしかすると高校側と私たち義務教育を所管する所の意思疎通が十分であるかどうかということも含めて、実態の意見交換を今後していく必要があるんじゃないかと感じています。少し国語の力が落ちているんじゃないかという指摘を去年益田高校の校長先生がおっしゃっておられました。それが心配だと。英語が悪いのは仕方ないと、国語の力はある程度あったので3年で結構伸びたというのが益田高校の進学指導の実態だったということです。そのほかにも翔陽高校や明誠高校、益田東高校のそれぞれの感想があるんだろうと思いますので、その辺のところを今後更にしっかり連携していく必要があるんだろうなと感じているところです。

村川教育長　　今の話は非常に重要なことでありまして、教育の魅力化でこれまで以上に高校現場と連携しながら、一貫性のある教育というものを目指す中で、やはり学力について現状とこれからということを課題に、学力だけでなく様々な意見交換なり連携を含めた教育関係を作っていく中で、そういうテーマをしっかり作っていくことになろうと思います。

水上委員　　特に大学とかを目指す子供たちの生徒たちの橋渡し期間を作ろうとしても、それまでの土台ができてないとそこにうまく乗っていかないという話を聞いています。今の学力の公表がどうかっていう温かくベールに包む部分もあるけれども、伸ばしていかないといけないところではみんなで責任を持って伸ばしていかないといけないという厳しい姿勢も持たないと、やっぱりその子たちのためですから、社会に出ても競争というものはどこかにありますし、怠けていても中学校は卒業できる、怠けていても行きたい学校に行けるというのは、やっぱりもう少し多少の競争心とか、向上心とかっていうのを作る雰囲気为学校現場も保護者も地域の人もみんなで作っていくっていうのが将来の益田市の人材を作っていくためにはとても大事だと思いますので、心していかないといけないんじゃないかなと思います。

村川教育長
教育委員　　ほかにご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。
＝全員了承＝

村川教育長　　ほかにありましたらお願いいたします。

水上委員　　部内スケジュールに「真砂小可動ステージ修繕」とありますが、何かあったんですか。

島田課長　　実は修繕が必要な状態になっています。先日県道が開通しまして、開通式を真砂小の体育館を会場にして行いました。その時に可動式ステアーを開くのに一部レールの設定の間違ひがありまして、電動で無理に動かすために機械が壊れたという状況です。今度文化祭等にも使いますので、それに修繕を間に合わせるように進めているところです。

水上委員 子供たちが新しい体育館で怪我でもしたのかなと思ったんですが、よく分かりました。

村川教育長 よろしいでしょうか。
教育委員 =全員了承=

村川教育長 ほかにありましたらお願いいたします。

中野委員 よくチラシとか文書とかもそうなんですが、教育委員会が主催であったり共催であったり後援であったりということを目にするんですが、自分たちは教育委員という立場ではあるんですが、ほとんど分からなくて、聞かれた時に答えられないという状況です。もし可能であれば、この場で情報共有ということも含めて情報提供いただけたらと思います。

村川教育長 共催や後援については当然教育効果というものがあるということで許可していますので、その辺は出来るだけ広く知っていただくということも含めて皆様方にもいずれかの方法でお知らせしたいと思います。よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

村川教育長 ほかにありましたらお願いいたします。

川原部長 今日美都分室の職員が出席していないんですが、今美都の給食調理場を改修しております、当初の予定どおり11月25日に竣工検査ができそうです。12月1日から新しく受託される業者さんが準備を始められるんですけども、その時に調理場の中を消毒を一旦してしまったら、特定の人しか中に入れないということがあって、その日にちが今のところ決まっていません。ですから竣工検査が終わってから消毒するまでの間のどこかで説明する場が設けられないかと日程調整しておりますので、また急なご案内になるかも分かりませんが、ご了承いただきたいと思います。試食会も予定しておりますが、竣工の1か月くらい先になると思いますので、12月25日前後くらいということで聞いておりますが、詳しくは決まっておりますので、また改めて報告させていただきたいと思います。

村川教育長 これについて何かご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。
教育委員 =全員了承=

村川教育長 次回の日程を決めたいと思います。次回は11月24日の13時30分から定例教育委員会を開催いたします。それでは以上で定例教育委員会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

終了時間 14時55分